



154億円ものムダ使い・新町西再開発 白紙撤回に向け、これからが本番です

新町西再開発の住民投票条例案が六月市議会で否決され、「あきらめてい
る」市民の方がおいでます。が、白紙撤回（中止）に向けての運動は「こ
れからが本番」です。その運動を推進する『新町西再開発の白紙撤回を求
める市民の会』結成総会が十月五日、郷土文化会館で開かれ、スタートを
切りました。

吉野川住民投票条例案も否決

それからが本番だった：

十三年前、十
一万筆も集まっ
た吉野川住民投
票条例を求める
署名「でした
が、当時の小池
市長は「住民投
票は必要ない」という意見を表明
し、市議会は条例案を否決しまし
た。このことは、今回の「新町西再
開発住民投票条例案」への市長意見
表明と、市議会の否決と 全く同じ
パターンです。

吉野川住民投票が実現したのは、
市議会の否決から二ヶ月後に開かれ
た市議会議員選挙で、「住民投票賛
成派の議員」が過半数を制し、「条例
案が復活」したからです。

また、二十三年前の「海洋パーク
住民投票条例を求める署名」運動で
は、五万一千筆の署名が集まり、三
木市長が「白紙撤回を表明」し、事
業は中止されました。

「議会が否決したから終わった」



百名を超える市民で熱気

白紙撤回を求める市民の会

十月五日、郷土文化会館に百名
を超える市民
が集まり、熱
気に包まれま
した。

そして、「新
町西再開発の
白紙撤回を求
める市民の
会」が結成さ
れ、「会則」を決め、「世話人」を
選出 白紙撤回させる運動がス
タートしました。



吉野川、新町西の

住民投票リーダーなど

幅広い市民運動が結集

「世話人」には五十一名が選出さ

れました。

その顔ぶれ
は、十三年前の
吉野川住民投票
運動で中心を
担った方々や、

今回の新町西再開発の住民投票署名
運動で中心を担った方々など、幅広
い市民運動が結集された形になって
います。そのお名前等は、近日中に
発行される「新町西再開発の白紙撤
回を求める市民の会」のチラシ等に
掲載される予定です。

来年三月末までに

一万人の会員登録を

「新町西再開発の白紙撤回を求め
る市民の会」の目的は、「新町西再開
発を白紙撤回させる」こと。

そのために、「来年三月末までに
一万人の会員登録を進め、「ニュー
ス配布を基本としたネットワークづ
くり」、「全ての市民に知らせる
ニュースの

発行」、「草の
根の集いや
学習会」を展
開していき
ます。運営費
は、「一口百
円から」の寄
付金で賄い



十月中に世話人会を開き 代表世話人や事務局を選出

結成総会で選出された世話人の会を十月中に開催し、白紙撤回の運動を本格化させます。

世話人会では、「代表世話人」「事務局」を世話人の中から選出します。

また、運営費(寄付金)を集めるため、「財政委員会」を 一万人の会員登録



当面の連絡先は

を推進するため「組織委員会」を世話人で分担して担うことになっています。

「新町西再開発の白紙撤回を求める市民の会」の事務所を設置することにしていますが、それまでの間は「太田ボタン店」が連絡先です。

太田ボタン店(太田周造)

徳島市西新町二丁目十四

TEL 0901688517698

FAX 088162610130

新町西再開発は

正直に真面目に営業し、生活している地権者を

強制的に追い出し、ホールを建設する不当なもの

新町西再開発は総事業費百五十四億円で、百二十五億円が市民負担(今後二十一年間、毎年五〜六億円も借入金返済する金額)という、ムダな大型公共事業です。それは、「事業目的である中心市街地の活性化」にならないホール(半分以上が閉館している)が八割も占める事業だからです。

この事業を請け負うのは、県外の大企業・竹中組 新町西再開発は「ゼネコンの仕事づくり」事業です。

新町西再開発事業は

一昔前の「地上げ屋」

新町西再開発区域内は「シャッター通り」が目立ちますが、ここで正直に真面目に営業し、生活している

方々がおいでます。

その方々を、

法を盾に「強

制的に追い出

す」のが新町

西再開発(第



一種再開発)事業 「地権者の三分の二以上の同意」があれば強制執行できる法律です。

一昔前までは、「地上げ屋」が暴力手段等で立ち退かせていましたが、今は、「法の力」で強制執行できるようになってしまいました。

再開発区域に狙われる シャッター通り

全国各地で行われている再開発ですが、主導しているのは事業を請け負う大手ゼネコン、ディベロッパー(開発業者)です。



その大手企業が「目をつける」のが「シャッター通り」 「地権者の三分の二以上の同意」をとるのが容易だからです。新町西地区が「選ばれた」のも、全国各地と共通しています。

ホールを旧動物園跡地に

建設すれば

立ち退き強制執行は起らない

徳島市が設置した市民会議で、十四年もかけて審議し、「ホールは旧動物園跡地に建設する」との最終報告書を原市長に提出 それを議会に

も諮らず棚上げし、「ホールは新町西再開発に」という計画を打ち出したのが原市長です。「こんな独裁政治は許せない」という声が大きく挙がっているのは当たり前です。

当面は文化センターを耐震・リニユーアルして長持ちさせ、ホール積立金(現在十六億円)を増やし、将来、立派なホールを旧動物園跡地に建設すべきです。

また、ホールを旧動物園跡地に建設すれば、「正直に真面目に営業し、生活している地権者を、強制的に立ち退かす」という不当な事態は起こりません。

文化センターを

耐震・リニユーアルすれば

二十年は長持ちさせられる

市民世論に押され、この九月市議会で「文化センターの耐震診断費」が予算化されました。

全国には文化センターより古く、同規模のホールが十五あり、その内の五ホールが耐震リニユーアルされ、立派に生まれ変わっています。

文化センターも耐震化に加え、音響、楽屋、トイレ、舞台、客席などを改修すれば生まれ変われます。

この耐震・リニユーアルの費用は十億円程度 ホール建設費の十分の一程度です。